

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

そくてつ保育園 GENKIDS いずみ中央

横浜市泉区和泉町 3571 番 エスボックス内

運営主体: 相鉄アメニティライフ株式会社

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2 ~ 4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ~ 7 ページ
分類別評価結果	8 ~ 17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18 ~ 25 ページ
利用者本人調査分析	26 ~ 28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2009 年 3 月 24 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	そうてつ保育園 GENKIDS いずみ中央	
報告書作成日	2009年3月24日	評価に要した期間 4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:2008年11月7日～12月3日</p>	<p>10月の職員会議で全職員に趣旨説明をした。</p> <p>各個人が記入したものをもとに、クラスごとに意見交換しながら1項目ずつ確認・合意した。それをもとに、各クラスリーダー、第三者評価担当者、施設長で協議・合意してまとめた。</p> <p>12月3日に施設長、主任、各リーダーで協議し最終決定をした。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間2008年11月7日～11月23日</p>	<p>全園児の保護者（50家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 2009年1月14日 第2日 2009年1月15日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。施設長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、障害児担当職員1名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任と個別に面接調査。 その後、施設長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 2009年1月14日 第2日 2009年1月15日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。園外での活動も観察。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

そうてつ保育園 GENKIDS いずみ中央は、相鉄いずみ野線いずみ中央駅から、歩いて2分、相鉄線高架下にあります。隣接してマンションがありますが、周囲には和泉川を始めたくさんの自然が残っています。園舎は鉄骨平屋、高架下ですが構造上の工夫をしていますので、気になる振動や騒音はありません。

当園は2006年（平成18年）4月に開設しました。運営は相鉄アメニティライフ株式会社が行っています。法人は相鉄沿線に系列園3園（認可保育園2園、横浜保育室1園）のほか、学童保育施設を4箇所運営しています。定員は60名（産休明け～5歳児）、平日の開園時間は7時から21時、土曜日は7時から18時です。

保育理念として「GENKIDSは、0～5歳の乳幼児は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることを認識したうえで、お子様が安全に・快適に・そして元気に過ごせる環境を提供できるよう責任を持って努めるとともに、お母様、お父様が安心して働ける環境作りをサポートします。家庭内保育など多様な保育ニーズにきめ細やかに対応するサービスを提供し、また園外保育の実施などにより、地域の暮らしの支援・保育ネットワークの形成に努めます。」、基本方針として「GENKIDSは、“今日”という毎日の暮らしに、『生活の型』を通して喜びと安心感を与えることが、子どもたちが“未来”に生きることにつながると考えています。子どもたちが最良の今日を生き、そして望ましい未来を作り出す力を培えるよう、GENKIDSが保育を通じてサポートします。」を掲げています。

高く評価できる点

1、 子どもたちは「家庭」の中にいるかのように安心し、元気に園生活を楽しんでいきます。

園では保育園を「あたたかい家庭の延長」ととらえ、安心、安全であたたかい環境を整えるように、努めています。

乳児は保育士にたくさん抱っこや、声かけしてもらい、落ち着いています。幼児は保育士たちに見守られ、自分たちの興味にあわせ自分たちなりの遊びを考え、遊びこんでいます。

園では園外活動を重視しており、雨でない限り毎日2回、近くの公園や、川辺、駅周辺に散歩に出かけます。公園での子どもたちは走ったり、斜面を登ったり、滑り降りたり、鬼ごっこをしたりと元気一杯です。また、自由遊びでは遊具だけでなく、霜柱や枯葉、枯れ枝など目に付くもの全てで遊びを作り出します。霜柱の混じった土でお団子やスープを作ったり、水路で木の枝に水を流す仕掛けを作ったり、遊具にぶら下がってコアラのまねをしたりと、子どもたちは思い思いに自然の中で五感をはぐくんでいます。

生活面でも、子どもたちは乳児期からしっかり生活の型を教えられ、幼児になるとほとんど自分たちでできるようになっています。乳児のときから何をしたいのかを言葉で表すよう、ゆっくり話を聞いてもらっているため、幼児になると子どもたちは自分の気持ちを言葉で保育士や友だちに伝えることができます。5歳児では一人ひとりがしっかり考えを言い、聞いてあげることもできおり、友達のことも分かり、子ども同士で決めたり、解決したりできる力が育っています。

2、 保育士は、「コミュニケーション」を大切にし、子どもの育ちを全力で見守っています

園では今年度の目標として「コミュニケーション」「我慢」「集中力」「自分から学ぶ姿勢」を掲げています。保育士は子どもの見本となるべく、子どもの育ちを全力で見守りながら、率先してこの目標を保育の中で実践しています。

特に「コミュニケーション」は、子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添い、子どもをせかしたり強制することはなく穏やかな言葉で優しく接し、話をよく聞くようにしています。また、職員間で子どもを叱る時

のルール（危険なことをした時、他の人に危険なことをした時、道徳に反したとき以外は叱らない）も決めており、全職員が子ども的人格を尊重し、上から押し付ける言い方はせず、子どもの言い分をよく聞くように努めています。このような取り組みを通し、保育士と子どもたちとの間には信頼関係が確実に育っています。

また、保護者に対しては、朝夕に笑顔であいさつを交わすだけでなく、その日の子どものエピソードなどを伝えるなど、コミュニケーションを密にとるように心がけています。散歩では、地域の人たちに対して保育士は自分から進んで笑顔であいさつを交わしており、子どもたちも地域の人たちとあいさつするように育っています。

コミュニケーションは保育士同士でもしっかりとられており、朝夕の申し送りなどで子ども一人ひとりの様子について全員で周知し、連携して保育に当たっています。乳児クラスでは少しでも持ち場を移動するときは必ず声を掛け合っています。

3、園は職員のモチベーションを大切に、後継者を育成しています

施設長は、将来の主任クラスの育成を視野に入れ、リーダークラスの育成を計画的に行っています。不定期に行われるリーダー会議には施設長、主任、クラスリーダーが出席し、季節の行事などの明細や注意点、その時々の問題点や気になっていることが話し合われます。クラス運営の権限はクラスリーダーに委譲されており、ほかの担任をまとめています。たとえば、指導計画は新年度のクラス担任と前年度の担任、施設長、主任と一緒に話し合い目標と骨組みを決め、それに基づきクラス担任が作成しています。施設長、主任は作成された計画を助言・指導したり、保育士の相談にのったりしています。また、主任は年休や週休の保育士の代わりに保育に入り、個々の職員の業務状況を把握し、的確な助言や指導を行っています。

施設長は保育士たちとの信頼関係を築いています。施設長、主任は保育士たちが良好な状況で保育に取り組めるよう声をかけたり、話を聞いたりしています。保育士たちからの意見・提案も積極的に取り入れており、保育士たちは、自分たちが得意とすることや、自分で調べ考えたこと、研修で学んだことを保育の現場で活かすべく提案し、施設長、主任の許可を得て実践しています。たとえば、家族援助論を学んだ保育士の提案により保護者への遅番の伝達法を見直したり、職員が研修や地域療育センターで学んだことを特別支援児に対する手作りの絵カードを取り入れたりしています。

このように、それぞれの経験や能力などに応じて役割を個々に与えるとともに、風通しのよい職場をつくることにより、職員のモチベーションが高まり、後継者が確実に育っています。

独自に取り組んでいる点

「働きやすく子育てしやすい企業」を目指し、体制づくりをしています

法人は働きやすい環境を整え人材の流出を防ぐことが、将来の人材育成につながると考えています。そのため、有給休暇などの福利厚生だけでなく、男性保育士のための更衣室を設けるなど職場環境を整備しています。

また、育児のために勤務時間が2時間短縮される短時間労働制度や沿線に保育士のための託児所を設けるなど、子育てのための体制も整えています。これらの制度を実際に利用して、子育てしながら仕事を続けている保育士もあり、その保育士の経験が法人の中で蓄積されています。また、制度を利用し子育てしながら仕事を頑張っている先輩の姿を見ることは、これから結婚、出産を考えている保育士にとっての励みとなっています。

このような体制づくりが評価され、法人は横浜市の「よこはまグッドバランス賞～働きやすく子育てしやすい企業～」を受賞しました。

改善や工夫が望まれる点

1、 地域への子育て支援へのさらなる取り組みが期待されます

子どもたち、保育士たちは散歩などで地域住民と日常的に交わっています。また、地域の人に遊びを教えてもらい一緒に給食を食べるなどの、地域との交流も行っています。このように園は地域の施設として地域に溶け込んでおり、子どもたちは地域に見守られて育っています。

しかし、保育園には保育の専門家としての地域の子育て支援の役割も求められています。施設長は、泉区主催で未就園児の保護者向けに保育園の紹介や相談を行う「いずみっ子広場」での子育て相談には加わっていますが、園としての子育て支援事業は、一時保育のみで、これも人数に空きがないため実行されていません。保育園の中で培った力を、ぜひ地域の子育て家庭のためにも活かすよう、子育て相談や講習会などの子育て支援を実践されることを期待します。

2、 マニュアルなどの整備が望まれます

園では安全管理についてのマニュアルは完備しており、事故報告書に基づき話し合い、解決・改善にいかしています。また、全職員が年1回救命救急法の講習を受けるなどの体制も整っています。

しかし、衛生管理、健康管理などに関しては業務の流れに沿った、実践的な手順書はありますが、これらは日常の保育の中で必要なものをまとめたもので、きちんと整理されていません。しかし、マニュアルは初めて見た人でも分るようにしておかなければ、非常時など本当に必要な時に役立ちません。また、感染症の管理などは変化しているので、マニュアルの見直しも大切です。

今後の職員の交代などに備え、保育の質を維持・向上していくためにも、健康管理・衛生管理などのマニュアルを整備、見直しをしていくことが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の基本方針として「GENKIDSは、“今日”という毎日の暮らしに、「生活の型」を通して喜びと安心感を与えることが、子どもたちが“未来”に生きることにつながると考えています。子どもたちが最良の今日を生き、そして望ましい未来を作り出す力を培えるよう、GENKIDSは保育を通じてサポートします」を掲げています。
- ◇ 保育士は保育園を「家庭の延長」としてとらえ、子どもの育ちをサポートするために全力で子どもと向き合うよう心がけており、保育の実施内容は基本方針に沿っています。
- ◇ 職員間で子どもを叱る時のルールを決めています。そのために全職員が子どもの人格を尊重し、上から押し付けるいい方はせず、子どもの言い分をよく聞くように努めています。
- ◇ 守秘義務と個人情報保護の基本方針を全職員に周知しています。
- ◇ 虐待の定義等についてはプリントを全職員に配布して周知しています。虐待が明らかになった場合には関係機関と連携相談ができる体制を整えています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 清掃は適切に行われており、保育園内の屋内・外とも、清潔に保たれています。空気清浄機、床暖房、エアコン、加湿器などを用いて環境を整えています。
- ◇ 鉄道の高架下であります。緩衝材を用いるなど音や振動を防ぐための構造上の工夫がなされており、気になる音や振動はありません。
- ◇ 活動によってつかまり立ちのための机を出し、折り紙やお絵かきのための場を設けるなどの工夫を行っています。保育室が狭く構造上の問題はありますが、乳児においては、マットや仕切りなどを用いてコーナーを設けるなど、小集団保育のためのなんらかの工夫が望まれます。
- ◇ 子どもの自由な発想を大事にして集団活動に取り入れています。
- ◇ 今年の目標の一つに「コミュニケーション力をつける」をあげ、保育士が率先して挨拶などを心がけています。散歩の道中や公園では、子どもたちも地域の人や親子と気持ちの良い挨拶を交わしています。
- ◇ 園の周辺は自然が豊かで、毎日いろいろな場所に出かけて自然と触れ合っています。訪問した日も、霜柱や落ち葉で遊んだり、公園にいるリスを見つけたりしていました。
- ◇ 子ども同士のけんかは、危なくないように見守り、乳児期は保育士が子どもの気持ちを代弁し、幼児期は子どもたちの気持ちをきいて解決できるように導いています。5歳になると子どもたちはほとんど自分たちで解決しています。
- ◇ 食材には有機食品・低農薬野菜などを使って安全に配慮しています。また、食器も子どもにふさわしい絵柄の陶磁器を使用しています。
- ◇ 栄養士が毎日子どもたちの食事の様子を見て回り、残食記録や給食ミーティングなどで子どもの喫食状況を把握し、盛り付けや切り方などを工夫しています。
- ◇ トイレトレーニングは、排尿間隔や言葉の発達などを考慮し、保護者とも連絡を密にとりながら個別に進めています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 「よこはまの保育」を基にして、保育計画を作成しています。作成した保育計画は全職員に配布、研修を行い、周知しています。
- ◇ 4月の懇親会において、全保護者に対し保育計画に沿い、年度目標やクラスの運営について説明しています。

- ◇ 0、1 歳児の新入園児に対しては個別に主担当保育士は決まっていますが、子どもと保育士との相性なども考慮して柔軟に対応しています。
- ◇ 指導計画の評価・見直しは毎月、前月の反省や子どもの様子、発達の段階についてクラス担任が話し合い作成し、施設長、主任が助言・指導したうえで、全クラスに周知しています。
- ◇ 0、1 歳児については、個別指導計画を作成しています。また、幼児についても、特別な課題のある場合には、個別指導計画を作成しています。
- ◇ スロープ、点字ブロック、手すりの設置、段差のないフローリングなど、障がい児保育のための環境整備を行っています。
- ◇ 障がい児担当の職員が、発達に見合った指導計画を作成するとともに、必要な絵カード、絵本などを個別に作成し、対応しています。
- ◇ 食物アレルギーのある子どもに対しては、子どものかかりつけ医から「主治医意見書」を必ず提出してもらい、それに基づき、除去食、代替食を提供しています。
- ◇ 『ご利用のしおり』に苦情受付窓口、第三者委員会について保護者に周知していますが、第三者委員の氏名や連絡先などは紹介していません。また、外部の権利擁護機関などの外部の苦情解決窓口の紹介は行っていません。保護者の安心のためにも、紹介することが望まれます。
- ◇ 健康管理には力を入れ、1日3回の検温を行い、家庭との連絡も密にとって子どもの体調管理に努めています。
- ◇ 衛生管理マニュアルとしてまとめられたものはありませんが、清掃チェック表や早番・遅番スタッフ作業の手順書に従って清掃を行い、室内外を清潔に保っています。
- ◇ 安全管理マニュアルがあり、安全や事故防止に力を入れています。毎年、全職員が救命救急法の講習を受けて、身につけています。ケガや事故については小さなものでも報告書を作成し、スタッフミーティングで共有して再発防止に役立てています。
- ◇ 3歳児までは毎日連絡帳を使い、4、5歳児は随時使用して子どもの様子を伝えています。また、年2回の個人面談、年3回の保護者懇親会、毎日の送迎時に、子どもの様子やクラスの様子を伝えるよう努めています。
- ◇ 保護者組織はありませんが、保護者とのコミュニケーションは積極的に取っています。また、クラス代表が参加している運営委員会を年2回開催し、保護者の意見をきいています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 泉区内全園対象の未就園児をもつ地域の保護者への園の情報発信および子育て相談窓口である「いずみっこ広場」や、園長会議（子育て支援会議）で区内の地域のニーズを把握しています。
- ◇ 子育て支援として、定員に空きがある場合は一時保育を実施していますが、園独自の地域住民向けの子育て相談や、講習会などを実施するには至っていません。
- ◇ ホームページに育児に関する Q&A や料理レシピを載せて情報発信していますが、園として独自に育児相談を行うまでには至っていません。
- ◇ 地域との関わりとして、近隣公園のゴミ拾いや散歩時のあいさつや、食育での買い物、食育の試みでの地域の方を招いての食事会などを通し、地域と交流しています。
- ◇ 園の内容についてはパンフレットやホームページで常に新しい情報提供に努めています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 組織および職員が守るべき法・規範・倫理等を法人としての CSR(企業の社会的責任)として明文化するとともに、年1回、CSRのマニュアルを全職員に配布し、施設長が研修を行い、周知しています。
- ◇ 「相鉄グループ環境取組マニュアル」の中に環境への考え方、取り組みを明文化し、運営に活かしています。
- ◇ 年度初めに、園の保育理念、方針を明記した『ご利用のしおり』を非常勤職員を含む全職員に配布す

るとともに、年度初めの全職員が参加する職員会議や毎月のスタッフミーティングにおいて、施設長が職員に周知しています。また、日常の保育の中でも施設長、主任が確認しています。

- ◇ 施設長は園の理念・方針を踏まえた保育を実施するよう、リーダークラスを育成していますが、具体的な人材育成計画としては明文化していません。
- ◇ 主任は年休や週休の職員の代わりに保育に入り、個々の職員の業務状況を把握し、的確な助言や指導を行っています。
- ◇ 施設長は法人本部、系列4園の施設長会議、泉区の園長会、新聞、インターネットなどから、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。重要な情報は施設長会議で議論し重点改善課題として設定し、リーダー会議、スタッフミーティング等で職員に周知しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 施設長は園の理念・方針を踏まえた保育を実施するよう、リーダークラスを育成していますが、具体的な人材育成計画としては明文化していません。
- ◇ 法人は働きやすい環境を整え人材の流出を防ぐことが、将来の人材育成につながると考え、育児のための短時間労働制度や沿線に保育士のための託児所を設ける、男性保育士のための更衣室を整備するなど「働きやすく子育てしやすい企業」を目指し、体制づくりをしています。
- ◇ 職員は年度初めに自己目標を「目標管理シート」に記載し、資質向上に向けた目標を定めています。各自の目標は年3回の施設長、本社スタッフとの面談において達成度が評価されています。
- ◇ 外部研修は原則として希望する職員が参加できる形をとっており、おおむね全職員が受講しています。外部研修に参加した職員は研修レポートを提出するとともに、内部研修において職員に対し報告しています。
- ◇ 系列4園との交換研修および他園での保育研修を行っています。いろいろな保育を見ることにより、多くのことを学ぶとともに、自分自身の保育を見直す良い機会となっています。
- ◇ ミーティングやスタッフ会議において、個別の事例をもとに話し合い、個々のスキルについて自己評価し、サービスの見直しを行っています。
- ◇ 園は経験等に応じた役割や期待水準についてを職員に、必要に応じて口頭で伝えていますが、明文化していません。
- ◇ 職員は、9月の継続調査書に意見、希望等を記入することができます。また、年3回の評価面接時には施設長、本社スタッフが職員の要望、意見を直接聞いています。
- ◇ サマースクール・インターンシップの中学生・高校生を次世代育成のために受け入れ、担当職員とともに、保育への理解を深め、育成をしています。
- ◇ 実習生については、本人の希望に添った実習ができるよう、実習担当職員も協力体制ができており、オリエンテーション・事後の振り返りで保育職への理解を高めています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の基本方針として「GENKIDSは、“今日”という毎日の暮らしに、「生活の型」を通して喜びと安心感を与えることが、子どもたちが“未来”に生きることに繋がると考えています。子どもたちが最良の今日を生き、そして望ましい未来を作り出す力を培えるよう、GENKIDSは保育を通じてサポートします」を掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。具体的には「あたたかい保育園を目指します」「保護者とのコミュニケーションを大切にします」「個性の育み」「創造性の育み」「躰の育み」となっています。 ・ 年度初めに、非常勤職員を含む全職員に対し、『そうてつ保育園 GENKIDS いずみ中央ご利用のしおり』を配布するとともに、年度初めの職員会議において、施設長が非常勤職員を含む全職員に保育理念・方針を一から見直し確認しています。 ・ 保育士は園を「家庭の延長」としてとらえ、子どもの育ちをサポートするために全力で子どもと向き合うよう心がけており、保育の実施内容は基本方針に沿っています。 ・ 「よこはまの保育」を基にして、保育計画を作成しています。作成した保育計画は全職員に配布、研修を行い、周知しています。 ・ 4月の懇親会において、全保護者に対し保育計画に沿い、年度目標やクラスの運営について説明しています。 ・ 新年度のクラス担任、前年度の担任、施設長、主任と一緒に話し合い、保育計画に沿い次年度の目標と骨組みを決め、それに基づきクラス担任が指導計画を作成し、施設長、主任の助言・指導を受けたうえで、非常勤を含む全職員に周知しています。保育士は子どもの話をしっかり聞くように心がけ、指導計画の見直しに反映しています。

- 2 子どもの発達や状況に
応じた適切な援助の実施



- ・ 入園前に個別に保護者に面接するとともに、子どもを観察しています。生育歴や寝かしつけ方法、食事、アレルギーなどの家庭での状況を保護者に児童票や食事調査書などに記入してもらい、子どもについての情報を把握しています。情報は記録し個人ファイルとして保管し、必要な時は見ることができます。
- ・ 0、1歳児の新入園児に対しては個別に主担当保育士は決まっていますが、子どもと保育士との相性なども考慮して柔軟に対応しています。また、入園当初は睡眠時間や授乳時間を家庭のリズムに合わせるなど、家庭との違いが大きくなるよう配慮しています。
- ・ 2歳児以上は、前年度1月から進級後の保育室に移動し保育室に慣れるなど、進級後の子どもの負担を軽くするための移行保育を行っています。
- ・ 指導計画の評価・見直しは毎月、前月の反省や子どもの様子、発達の段階についてクラス担任が話し合い作成し、施設長、主任が助言・指導したうえで、全クラスに周知しています。また、子どもの様子が大きく変わった時や保護者からの要望があった時などは、スタッフミーティングにおいて職員で話し合っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 清掃は適切に行われており、保育園内の屋内・外とも、清潔に保たれています。空気清浄機、床暖房、エアコン、加湿器などを用いて環境を整えています。
- ・ 鉄道の高架下ではありますが、緩衝材を用いるなど音や振動を防ぐための構造上の工夫がなされており、気になる音や振動はありません。
- ・ 沐浴・温水シャワーの設備があり、管理や清掃が十分に行われています。
- ・ 活動によってつかまり立ちのための机を出し、折り紙やお絵かきのための場を設けるなどの工夫を行っています。保育室が狭く構造上の問題はありますが、乳児においては、マットや仕切りなどを用いてコーナーを設けるなど、小集団保育のためのなんらかの工夫が望まれます。

- 4 一人ひとりの子どもに
個別に対応する努力



- ・ 0、1歳児については、個別指導計画を作成しています。また、幼児についても、特別な課題のある場合には、個別指導計画を作成しています。
- ・ 子どもの成長の記録は健康、食事、排泄、睡眠、着脱、遊び、人間関係などの項目ごとに「成長記録」にまとめ、個人ファイルに保存しています。また、成長曲線を記録し、発育状況を確認しています。必要な子どもの情報は記録し保管するとともに、スタッフミーティング、毎朝の申し送りにて、全職員に伝達、共有しています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・ 毎月のスタッフミーティングにおいて、個別のケースについて話し合い、記録しています。また、保護者との話し合いを密に行うように心がけています。
- ・ 外部研修などで得た最新の情報については、参加した職員が研修レポートを作成するとともに、園内研修において職員に発表するとともに、皆で学習し情報を共有しています。
- ・ スロープ、点字ブロック、手すりの設置、段差のないフローリングなど、障がい児保育のための環境整備を行っています。
- ・ 障がい児担当の職員が、発達に見合った指導計画を作成するとともに、必要な絵カード、絵本などを個別に作成し、対応しています。また、保護者とは送り迎え時や連絡ノートなどで密に連絡を取り、保育の方針について話し合い、連携しています。
- ・ 食物アレルギーのある子どもに対しては、子どものかかりつけ医から「主治医意見書」を必ず提出してもらい、それに基づき、除去食、代替食を提供しています。食物アレルギーなど配慮を要する子どもについての情報は、その日の申し送りで全職員に対し周知、確認しています。保護者に対しては毎月の献立表に除去食品を明記し、代替食や除去食のメニューを伝えています。
- ・ 文化の異なる子どもの保護者に対して離乳食についての理解を得るための働きかけを行うなどの配慮を行い、文化や、生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。また、その日の活動の様子をホワイトボードに書く時は全てひらがなで書くなど、意思疎通をスムーズに行うための配慮を行っています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 意見箱や懇談会、個人面談、アンケートや朝夕の送り迎え時の保護者との会話などを通して保護者の要望や苦情を積極的に聞いています。
- ・ 『ご利用のしおり』に苦情受付窓口、第三者委員会について保護者に周知していますが、第三者委員の氏名や連絡先などは紹介していません。また、外部の権利擁護機関などの外部の苦情解決窓口の紹介は行っていません。保護者の安心のためにも、紹介することが望まれます。
- ・ マニュアルとして「そうてつ保育園 GENKIDS における保育サービスに関する苦情解決事務処理要綱」を定めて、要望、苦情に迅速に対応する仕組みができています。保護者の要望、苦情や意見とその解決策はスタッフミーティングや朝の申し送りで全スタッフに周知するとともに、打ち合わせ議事録に記録しています。また、要望、苦情は報告書に記録するとともに本社にも報告し、解決、改善に活かしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室のおもちゃや教材はすべて壁面に収納するようになっているため、子どもが自分で取り出せるようにはなっていませんが、時間帯によってはドアを開けて自由に取り出せたり、保育士に頼んで取ってもらったりしています。 ・ 5歳児が1月からは集中して就学の準備に取り組めるように保育室を変えるなど年齢に応じた工夫をしています。 ・ 子どもの自由な発想を大事にして集団活動に取り入れています。たとえば、4歳児は子どもたちでストーリーをつくって劇をしたり、5歳児はお店屋ごっこに向けて、思い思いの品物作りを楽しんで集中して取り組んだりしています。 ・ 自由遊びの中では、保育士は子ども一人ひとりの興味を引出し、一緒に遊んで楽しさを盛り上げ、子どもたちだけで十分遊べると判断すると退くなどして、援助しています。 ・ 今年の目標の一つに「コミュニケーション力をつける」をあげ、保育士が率先して挨拶などを心がけています。散歩の道中や公園では、子どもたちも地域の人や親子と気持ちの良い挨拶を交わしています。 ・ 園の周辺は自然が豊かで、毎日いろいろな場所に出かけて自然と触れ合っています。訪問した日も、霜柱や落ち葉で遊んだり、公園にいるリスを見つけたりしていました。 ・ 乳児期は保育士が多くの歌をうたって聞かせ、子どもも一緒に合わせて歌っています。幼児期には毎日の歌や週1回のリトミックなどで表現を楽しんでいます。 ・ 子ども同士のけんかは、危なくないように見守り、乳児期は保育士が子どもの気持ちを代弁し、幼児期は子どもたちの気持ちをきいて解決できるように導いています。5歳になると子どもたちはほとんど自分たちで解決しています。 ・ 保育士はやさしい言葉で話しかけ、子どもの話もよく聞き、信頼関係を築いています。 ・ 子どもたちは1歳の時から毎日歩いて公園に出かけ体力をつけています。体操の時間だけでなく、公園ではマラソンや鉄棒、ドッジボールなどをして運動能力を高めています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 給食時には乳児には「おいしいね」「もぐもぐ」などよいかむことも教え、2歳児には「スプーン上手だね」とほめ、幼児には「野菜を食べると肌がすべすべになるよ」など話しかけながら、食事を楽しむように援助しています。
- ・ 食育年間計画を立て、乳児には「いろいろな味に慣れ、友達と楽しく食事をする」幼児には「食事のマナーを身につけ、友達と楽しく食事をする」ことをねらいとして、年齢ごと・期ごとの活動を行っています。
- ・ 食材には有機食品・低農薬野菜などを使って安全に配慮しています。また、食器も子どもにふさわしい絵柄の陶磁器を使用しています。
- ・ 栄養士が毎日子どもたちの食事の様子を見て回り、残食記録や給食ミーティングなどで子どもの喫食状況を把握し、盛り付けや切り方などを工夫しています。
- ・ 保護者には献立表のほか、毎月19日を食育の日として人気のあるメニューのレシピを配布し、懇親会で給食を試食してもらっています。
- ・ 午睡時はカーテンを閉め、音楽を流して雰囲気づくりをしています。どうしても眠れない子どもには強要することはしていません。
- ・ 乳幼児突然死症候群を防ぐために15分ごとに呼吸のチェックをしています。
- ・ 年長児は1月から午睡はせず、就学のための準備などをしています。
- ・ トイレトレーニングは、排尿間隔や言葉の発達などを考慮し、保護者とも連絡を密にとりながら個別に進めています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理には力を入れ、1日3回の検温を行い、家庭との連絡も密にとって子どもの体調管理に努めていますが、一つにまとめたマニュアルはありません。
- ・ 毎年、歯科医によるブラッシング指導を受けています。1歳の誕生日から歯磨きを始め、食後に自分で磨いた後、保育士が仕上げ磨きをしています。
- ・ 年2回の健康診断の際は、事前に保護者から健康面で気になることを書面でもらい、園医に伝え、回答を書面で保護者に伝えています。健康診断・歯科健診の結果は保護者に連絡帳等で知らせています。
- ・ 感染症等に関するマニュアルがあり、保護者にも『ご利用のしおり』で周知しています。
- ・ 園で感染症が発生したときは速やかに保護者に伝えています。訪問時には、結膜炎の発生を掲示板に掲示し、保育士が口頭でも保護者に伝えていました。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルとしてまとめられたものではありませんが、清掃チェック表や早番・遅番スタッフ作業の手順書に従って清掃を行い、室内外を清潔に保っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 安全管理マニュアルがあり、安全や事故防止に力を入れています。
- ・ 地震・火災のほか不審者対応の避難訓練を毎月実施するとともに、年1回消防署の職員に立ち会ってもらって訓練を行っています。
- ・ 毎年、全職員が救命救急法の講習を受けて、身につけています。
- ・ ケガや事故については小さなものでも報告書を作成し、スタッフミーティングで共有して再発防止に役立っています。
- ・ 出入り口は施錠し、セキュリティカードで出入りしています。また、安全管理のために各保育室に緊急通報器を設置しています。

- 3 人権の尊重





- ・ 職員間で子どもを叱る時のルールを決めています。(危険なことをした時、他の人に危険なことをしたり傷つけることを言った時、道徳に反したとき、以外は叱らない)そのため全職員が子どもの人格を尊重し、上から押し付けるいい方はせず、子どもの言い分をよく聞くように努めています。
- ・ 子どもと保育士が一对一で話したり、子どものプライバシーを守ったりする場所として、廊下、ユーティリティ、ホール、園庭、予備室があります。
- ・ 守秘義務と個人情報保護の基本方針を全職員に周知しています。
- ・ 虐待の定義等についてはプリントを全職員に配布して周知しています。虐待が明らかになった場合には関係機関と連携相談ができる体制を整えています。
- ・ 順番、グループ分け、役割などで性別による区別はしていません。子どもたちも自然に入り混ざって生活し、遊んでいます。

- 4 保護者との交流・連携









- ・ 保護者に対して毎年、年度末に『ご利用のしおり』を配布し、年度初めの懇親会で保育の基本方針を伝えています。
- ・ 3歳児までは毎日連絡帳を使い、4、5歳児は随時使用して子どもの様子を伝えています。また、年2回の個人面談、年3回の保護者懇親会、毎日の送迎時に、子どもの様子やクラスの様子を伝えるよう努めています。
- ・ 保護者からの相談は応接室等を使って行い、主任や施設長も助言をして適切に対応ができるようにしています。
- ・ 毎月園だよりを発行しています。3歳児までは毎日の連絡帳で、4、5歳児は毎日ホワイトボードでクラスの様子を保護者に伝えています。
- ・ 今年度から保育参加を行うようになりました。実施後のアンケートでは、子どもの頑張っている様子や保育士の苦労などがわかったと、好評でした。
- ・ 保護者組織はありませんが、保護者とのコミュニケーションは積極的に取っています。また、クラス代表が参加している運営委員会を年2回開催し、保護者の意見をきいています。

評価領域 地域支援機能




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉区主催で未就園児の保護者向けに保育園の紹介や相談を行う「いずみっこ広場」や、園長会議（子育て支援会議）で区内の地域のニーズを把握しています。 ・ 子育て支援として、定員に空きがある場合は一時保育を実施していますが、園独自の地域住民向けの子育て相談や、講習会などを実施するには至っていません。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページに育児に関するQ&Aや料理レシピを載せて情報発信していますが、園として独自に育児相談を行うまでには至っていません。 ・ 育児相談に関しての地域や関係機関等との連携は日常的には行っていません。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との関わりとして、近隣公園のゴミ拾いや散歩時のあいさつや、食育での買い物、食育の試みでの地域の方を招いての食事会などを通し、地域と交流しています。また、地域の老人会の体操クラブやママさんサークルへホールや机などの備品の貸し出しをし、保育園への理解を促す取り組みを行っています。 ・ ボランティアの中・高生や、小学校訪問、給食交流会で、地域住民や、幼稚園・学校との交流を深めています。 ・ 地域の文化施設や、リクリエーション施設は、利用していません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の内容についてはパンフレットやホームページで常に新しい情報提供に努めています。 ・ 利用希望者や見学者に対して、パンフレットを配布し、基本理念・方針は口頭で説明しています。 ・ 園見学については、見学者の希望と園の見学時間帯を調整して、対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代育成のため、サマースクール、インターンシップの中学生・高校生を受け入れています。 ・ 実習生については、本人希望に添った実習ができるよう、実習担当職員も協力体制ができており、オリエンテーション・事後の振り返りで保育職への理解を高めています。 ・ ボランティア・実習生には「保育実習について」、「守秘義務について」の文書を事前に配布しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 施設長は園の理念・方針を踏まえた保育を実施するよう、リーダークラスを育成していますが、具体的な人材育成計画としては明文化していません。 法人は働きやすい環境を整え人材の流出を防ぐことが、将来の人材育成につながっていると考え、育児のための短時間労働制度や沿線に保育士のための託児所を設ける、男性保育士のための更衣室を整備するなど「働きやすく子育てしやすい企業」を目指し、体制づくりをしています。 職員は年度初めに自己目標を「目標管理シート」に記載し、資質向上に向けた目標を定めています。各自の目標は年3回の施設長、本社スタッフとの面談において達成度が評価されています。 外部研修は原則として希望する職員が参加できる形をとっており、おおむね全職員が受講しています。外部研修に参加した職員は研修レポートを提出するとともに、内部研修において職員に対し報告しています。非常勤職員に対しては、研修レポートを配布しています。施設長、主任は研修レポートや日々の保育を通して研修の成果を確認しています。 系列4園との交換研修および他園での保育研修を行っています。いろいろな保育を見ることにより、多くのことを学ぶとともに、自分自身の保育を見直す良い機会となっています。 非常勤職員を含む全職員に対し、年度初めに『ご利用のしおり』とマニュアルを配布しています。また、年度初めの職員会議で非常勤職員も含む全職員に対し、基本理念、方針を説明しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングやスタッフ会議において、個別の事例をもとに話し合い、個々のスキルについて自己評価し、サービスの見直しを行っています。例えば、ご意見箱の意見を基に電話の対応を見直したり、家族援助論を学んだ保育士の提案により遅番の伝達の仕方を工夫するなどのサービス改善を行いました。また、系列4園の施設長会議において、良い事例や工夫・改善例などについての情報交換をしています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 経験等に応じた役割や期待水準について必要に応じて口頭で伝えていますが、明文化していません。 職員は、9月の継続調査書に意見、希望等を記入することができます。また、年3回の評価面接時には施設長、本社スタッフが職員の要望、意見を直接聞いています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が守るべき法・規範・倫理等が法人としてのCSR(企業の社会的責任)として明文化されています。年1回、CSRのマニュアルを全職員に配布し、施設長が研修を行い、周知しています。また、導入研修ビデオを用いての研修も行っています。 ・ 他施設での不正、不適切な行為があった場合はスタッフミーティングやリーダー会議で伝え、話し合っています。また、グループヘルプラインを設け、万が一園で不正、不適切な事例があった場合は、職員が本社に直接メールすることができる体制を整えています。 ・ 「相鉄グループ環境取組マニュアル」の中に環境への考え方、取り組みを明文化し、運営に活かしています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めに、園の保育理念、方針を明記した『ご利用のしおり』を非常勤職員を含む全職員に配布するとともに、年度初めの全職員が参加する職員会議や毎月のスタッフミーティングにおいて、施設長が職員に周知しています。また、日常の保育の中でも施設長、主任が確認しています。 ・ 重要な意思決定にあたっては、各クラスの保護者が参加する運営委員会にはかり意見交換しています。新年度に向けての移行保育など、重要な意思決定にあたっては、懇親会で保護者に意味合いを十分に説明しています。 ・ 主任は年休や週休の職員の代わりに保育に入り、個々の職員の業務状況を把握し、的確な助言や指導を行っています。また、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状況で取り組めるよう、声をかけたり、話を聞くなどの配慮をしています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設長は法人本部、系列4園の施設長会議、泉区の園長会、新聞、インターネットなどから、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。重要な情報は施設長会議で議論し重点改善課題として設定され、リーダー会議、スタッフミーティング等で職員に周知しています。 ・ 法人は企業などが経営する保育園で構成する協議会に参加し、外部の機関や専門家の意見を聞いています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年11月7日～11月23日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約62.0%（50枚配付、31枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...5人、1歳児クラス...6人、2歳児クラス...2人、3歳児クラス...7人、
4歳児クラス...6人、5歳児クラス...5人
ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

【問1】 保育園の基本理念や基本方針について

保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者は、61%です。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の100%が保育目標や保育方針に賛同できると答えています。

【問2】 入園時の状況について

「保育園での1日の過ごし方についての説明」については約97%、「入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴を聞く対応」、「費用や決まりに関する説明」については90%以上「園の目標や方針についての説明」「入園前の情報提供」については80%以上の満足度です。「見学の受け入れ」についての29%のその他は「開園と同時入園だったため、見学できなかった」というものです。

【問3】 年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」については約87%、「年間の保育や行事に保護者の要望がいかされているか」については満足と答えた保護者が約80%の満足度でした。意見欄には“行事の頻度が仕事を持つ親としては適度で良い”“年間行事や予定が早くから知らされており予定が立てやすい”などの意見があります。

【問4】 日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では「クラスの活動やあそび」「子どもが戸外遊びを十分にしているか」「遊びと通じたお子さんの健康づくりへの取り組み」については約97%、「園のおもちゃや教材」「園外活動」「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分に持っているか」については約90%の保護者が満足と答えています。“友だちと仲良く楽しく遊んでいるよう”“毎日の公園遊びと散歩がよい”と評価する声がある反面、“園庭がちゃんと活用されていない”という意見がいくつかありました。

「生活」の項目では、「基本的習慣の自立に向けての取り組み」が約97%、「給食の献立」「お子さんが給食を楽しんでいるか」「昼寝や休憩」「お子さんの体調への気配り」については90%以上、「ケガに関する保護者への説明やその後の対応」については約87%の満足度です。「おむつはずし」についてのその他29%は“まだその時期でない”“入園した時おむつをしていなかった”というものです。

【問5】 快適さや安全対策などについて

「お子さんがおちついて過ごせる雰囲気」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については約

87%の満足度です。「外部からの不審者進入を防ぐ対策」「施設設備」については約 80%が満足、約 16%が不満と答えています。これは設備や園庭の狭さによるものと思われます。

【問6】 園と保護者との連携・交流について

「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」「園たよりや掲示による情報提供」「送り迎えの際の子どもに関する情報交換」「子どもに関する重要な情報の連絡体制」については 90%以上、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「保護者からの相談事への対応」「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」については 80%以上の満足度です。“ 残業などにも柔軟に対応してくれる ” という感謝の声がある反面、“ 行事の詳細を早めに配布してほしい ” “ 子どもに問題があった時の報告が遅い時があるので、メモでも良いから早く欲しい ” という意見もあります。

【問7】 職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」については満足度 100%です。「話しやすい雰囲気、態度であるか」「意見や要望への対応」については 90%以上満足度です。「アレルギーのあるお子さんや障害があるお子さんへの配慮」についての 12%のその他は“ 分からない ” というものです。“ 保育士が皆、笑顔であいさつしてくれるのがとても良い ” という声がいくつかありました。

【問8】 保育園を総合的に評価すると

満足度は約 93%です。

まとめ

保護者は、園の日常の保育に、ほぼ満足している様子がうかがえます。特に、戸外遊びや友だちとの関わり、給食についての満足度は高いです。

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」については全員が満足しています。自由記入欄にも“ 話しやすい雰囲気があり安心して子どもを任せられる ” “ 子どもは先生が大好きです ” “ 保育士が皆、笑顔であいさつしてくれるのがとても良い ” などの声が見られました。

施設面については、狭さなどの構造上の問題だけでなく“ 園庭をもっと活用して欲しい ” という声が見受けられました。

保護者は子どものことに関する情報についてはほぼ満足しています。しかし、“ 保護者の園への意見・要望をどのように伝えればよいか分からない ” “ 意見を聞かれたことがない ” などの意見があります。また、園の取り組みが伝わっていないと思われる意見もありました。送り迎え時などの日常的な会話だけでなく、保護者の意見・要望を吸い上げる方法や園の取り組みを保護者に周知するためのさらなる工夫が望まれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

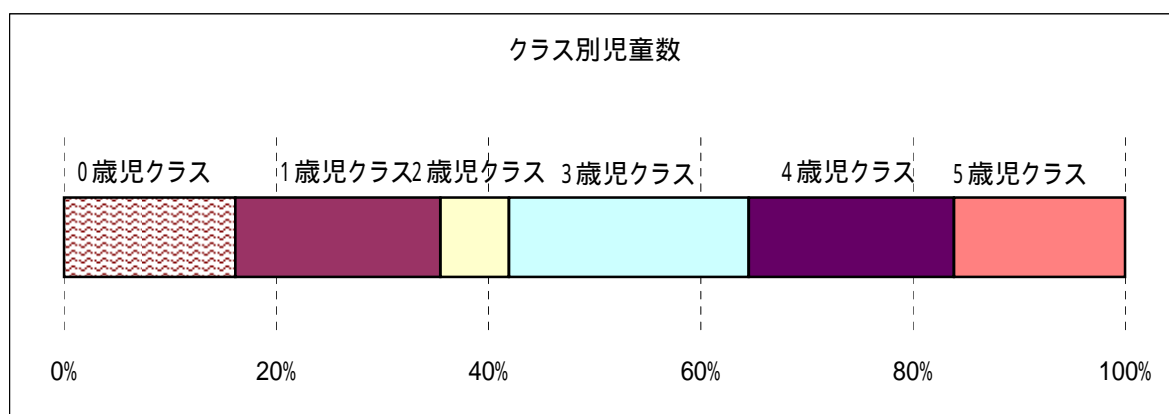
実施期間： 2008年 11月7日～11月23日

回収率： 62.0%（回収31枚 / 配布50枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
31	5	6	2	7	6	5	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



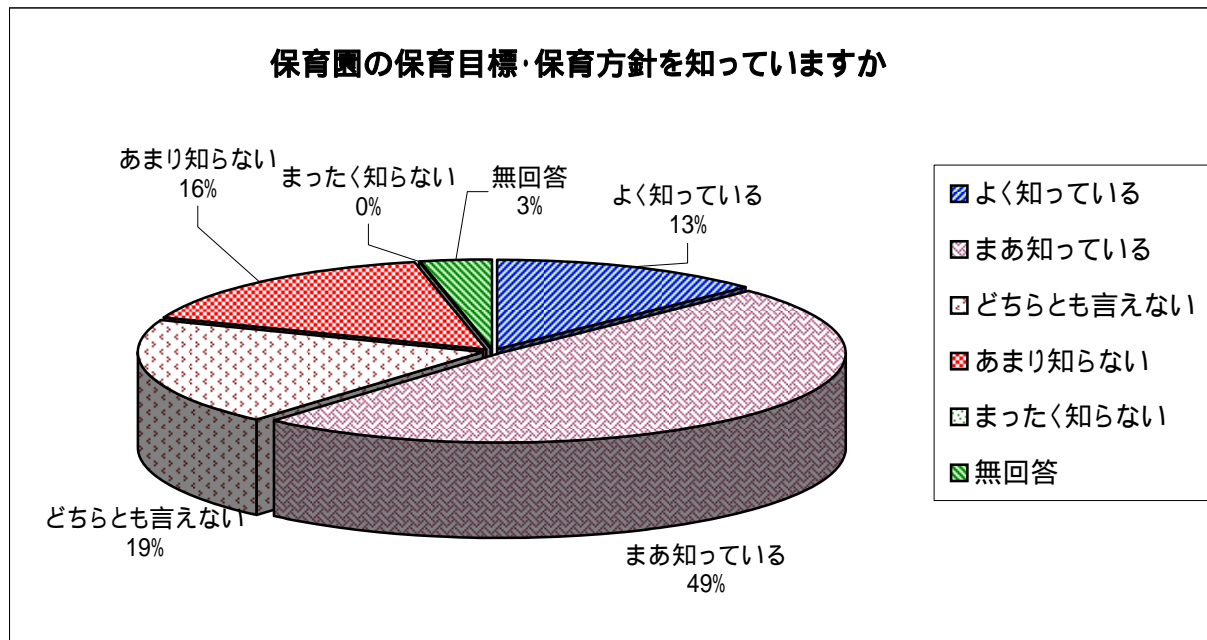
保育園の基本理念や基本方針について

問1：保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1：	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	12.9	48.4	19.4	16.1	0.0	3.2	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

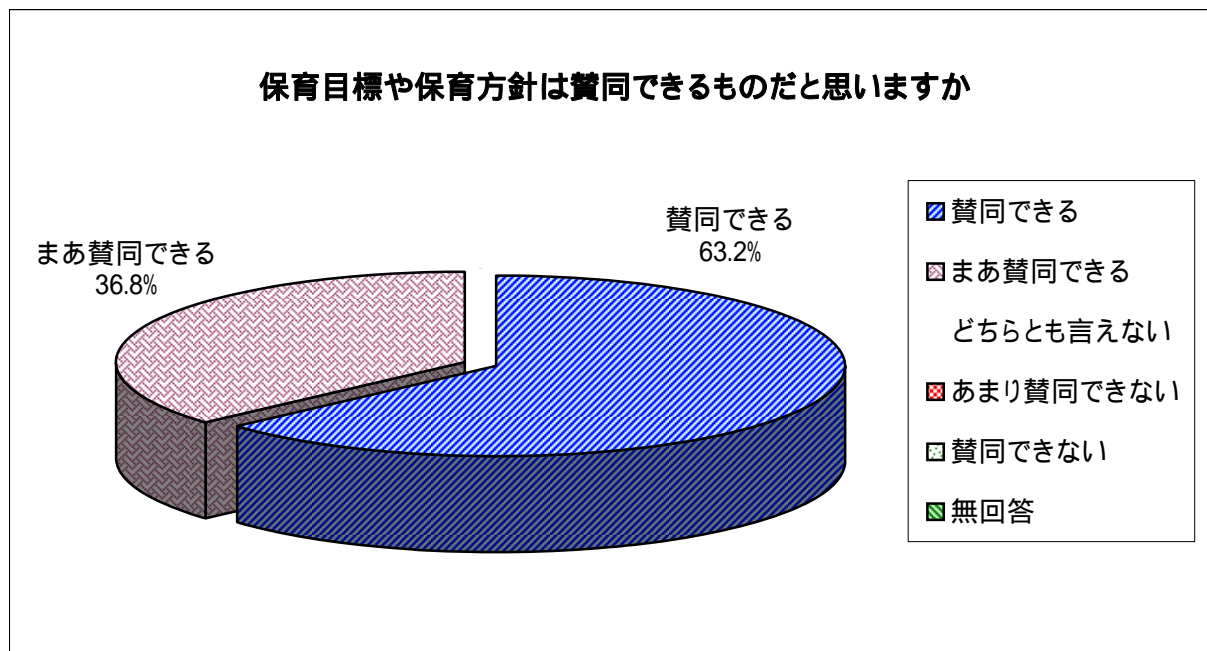


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1：その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1：	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	63.2	36.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

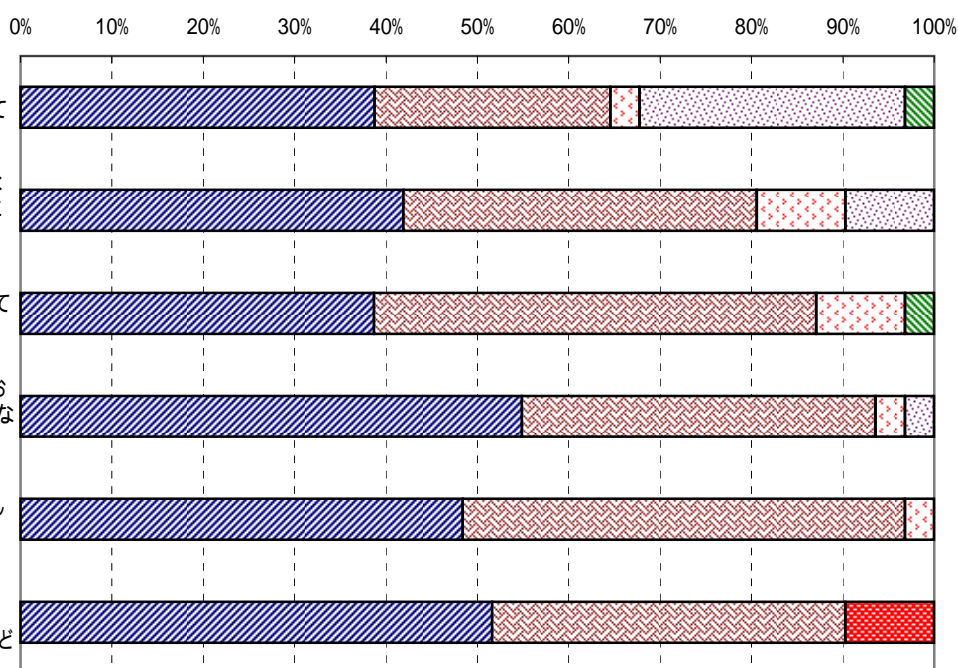
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	38.7	25.8	3.2	0.0	29.0	3.2	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	41.9	38.7	9.7	0.0	9.7	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	38.7	48.4	9.7	0.0	0.0	3.2	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	54.8	38.7	3.2	0.0	3.2	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	48.4	48.4	3.2	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	51.6	38.7	0.0	9.7	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



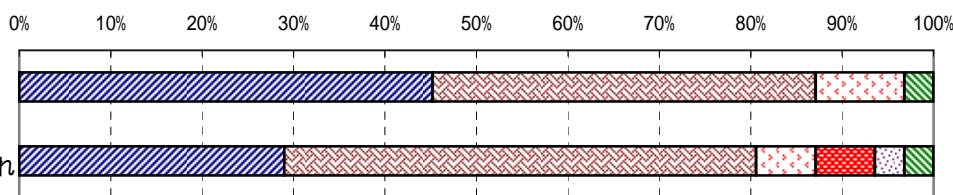
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	45.2	41.9	9.7	0.0	0.0	3.2	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	29.0	51.6	6.5	6.5	3.2	3.2	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

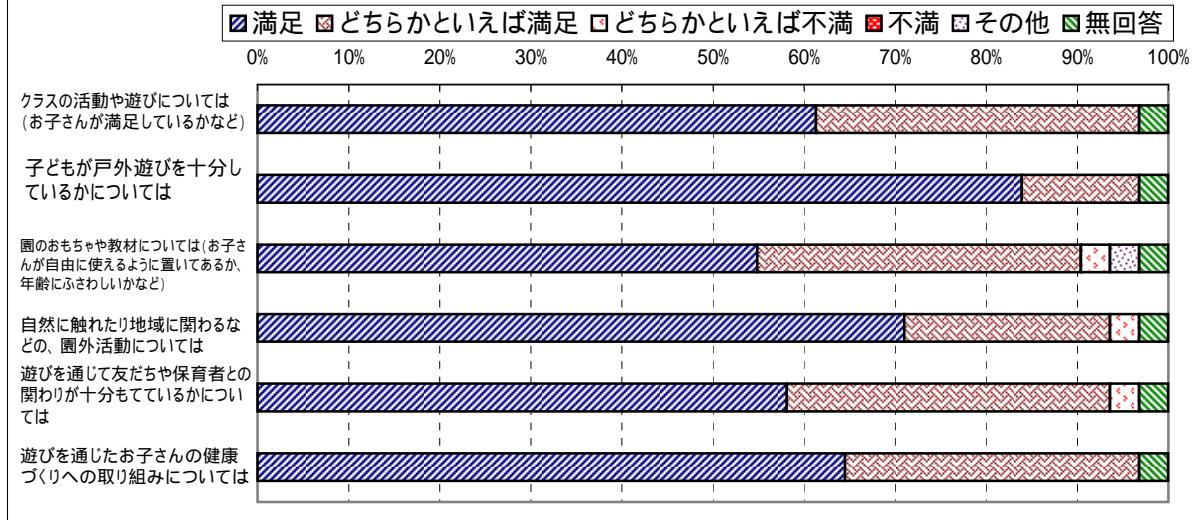


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	61.3	35.5	0.0	0.0	0.0	3.2	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	83.9	12.9	0.0	0.0	0.0	3.2	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	54.8	35.5	3.2	0.0	3.2	3.2	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	71.0	22.6	3.2	0.0	0.0	3.2	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	58.1	35.5	3.2	0.0	0.0	3.2	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	64.5	32.3	0.0	0.0	0.0	3.2	100

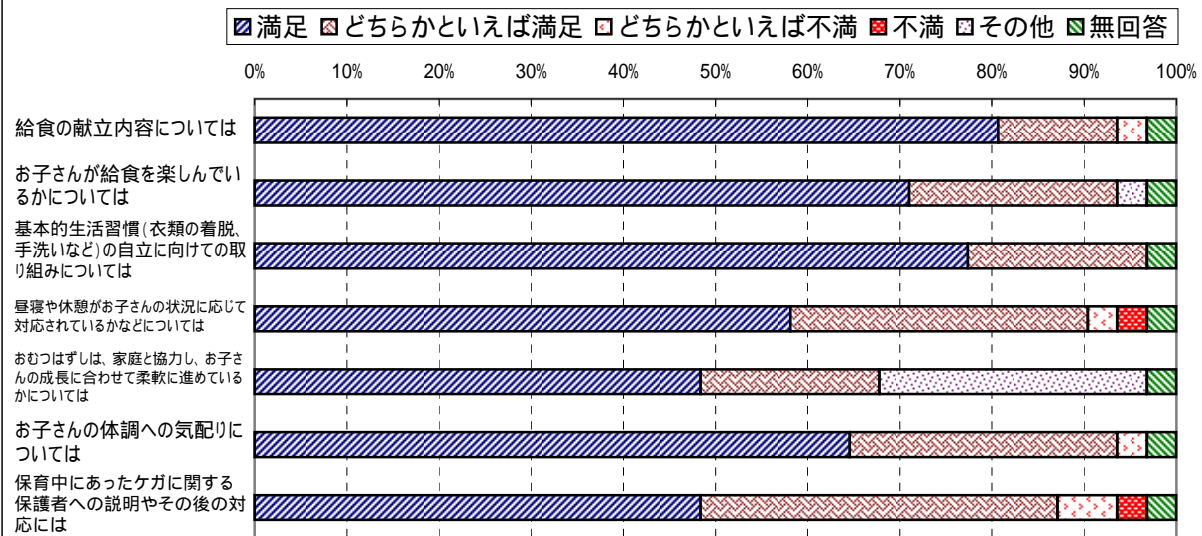
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	80.6	12.9	3.2	0.0	0.0	3.2	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71.0	22.6	0.0	0.0	3.2	3.2	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	77.4	19.4	0.0	0.0	0.0	3.2	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	58.1	32.3	3.2	3.2	0.0	3.2	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	48.4	19.4	0.0	0.0	29.0	3.2	100
お子さんの体調への気配りについては	64.5	29.0	3.2	0.0	0.0	3.2	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	48.4	38.7	6.5	3.2	0.0	3.2	100

日常の保育内容「生活」について



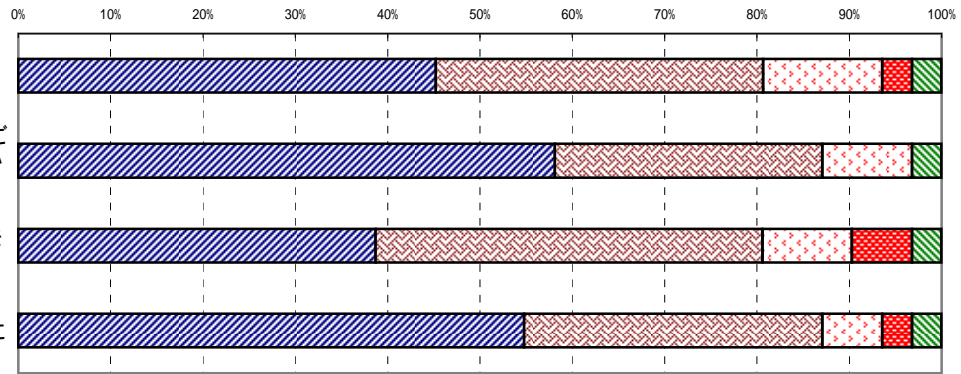
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	45.2	35.5	12.9	3.2	0.0	3.2	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	58.1	29.0	9.7	0.0	0.0	3.2	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	38.7	41.9	9.7	6.5	0.0	3.2	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	54.8	32.3	6.5	3.2	0.0	3.2	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



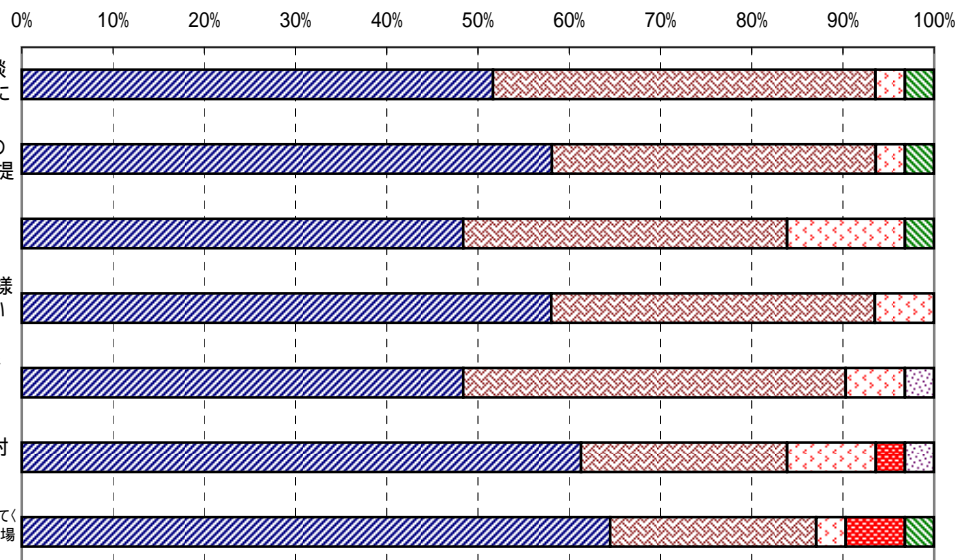
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	51.6	41.9	3.2	0.0	0.0	3.2	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	58.1	35.5	3.2	0.0	0.0	3.2	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	48.4	35.5	12.9	0.0	0.0	3.2	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	58.1	35.5	6.5	0.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	48.4	41.9	6.5	0.0	3.2	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	61.3	22.6	9.7	3.2	3.2	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	64.5	22.6	3.2	6.5	0.0	3.2	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

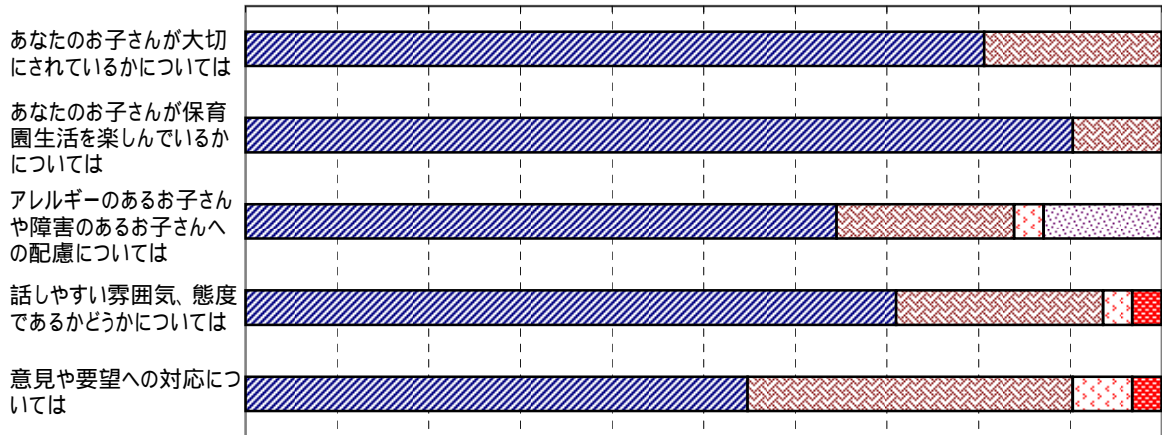
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	80.6	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	64.5	19.4	3.2	0.0	12.9	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	71.0	22.6	3.2	3.2	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	54.8	35.5	6.5	3.2	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

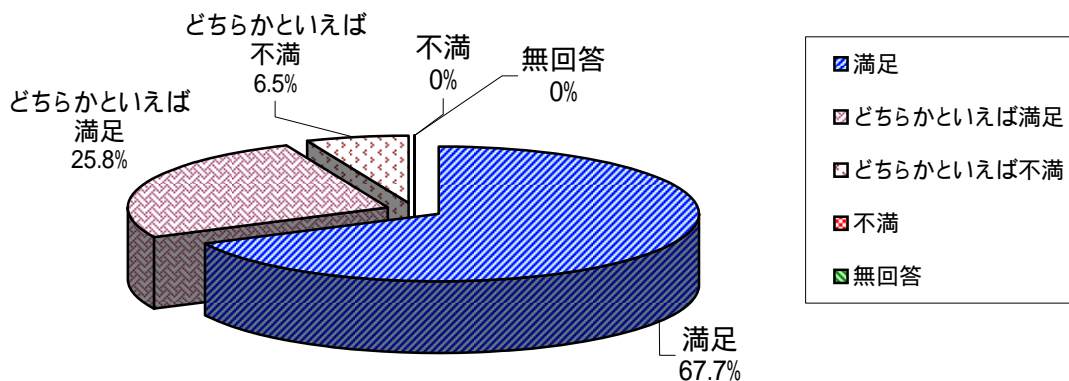


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	67.7	25.8	6.5	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 1月14日（水）9：00～17：30 1月15日（木）8：00～17：00

午前中の時間帯を中心に、1日は午後の活動も観察しました。

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

11カ月から1歳9カ月までの9人の子どもに4人の保育士がついていました。

おやつの時間、保育士は「おいしそう」「もぐもぐ」など声をかけています。おやつが終わると、子どもたちは保育士の脚や膝にまとわりついて遊びだします。

散歩に行く準備が終わると、バギーに乗る子どもと、保育士と手をつなぐ子どもに分かれました。子どもたちは公園までカモやリスを見たり、どんぐりを拾ったり、途中で座り込んだり、止まったりしながらも坂の上の公園までよく歩きます。

公園では、遊具を使ってかくれんぼのようにして「ばー」と保育士と出会っては喜んでいきます。砂場ではままごとをしたり、砂を器から出し入れしたり、ろうと型の穴に通したり、ふるいでふるったりして楽しんでいました。日陰の寒さも平気で十分遊んでから片づけをし、またバギーに乗る子どもと歩く子どもに分かれて、園に帰りました。散歩の途中でも室内でも保育士に歌をたくさん歌ってもらっています。

園に帰ると、うがいと手洗い、着替えをし、おむつを交換してもらいます。おむつ交換が終わると椅子に座り、絵本を読んでもらいます。ねむそうな子どももいましたが、子どもたちはよく聞いています。

給食は手づかみの子どもと時々スプーンを使う子どもがいますが、自分で上手に食べています。最後は保育士がスプーンで子どもの口に入れて手伝っていました。保育士は「からあげおいしいねー」「スプーン上手」と声をかけています。

1歳児クラス

登園してきた子どもたちは、出されたおもちゃで自由に一人で遊んだり、友達と遊んだりしています。保育士に抱かれたまま遊んでいる子どももいます。あとから加わった保育士は、一人ひとりの子どものほっぺを手ではさんだり、抱きしめたりして挨拶をしています。

おむつ交換は一人ひとり声をかけて、ユーティリティの中の低い椅子に座らせて行きます。子どもたちはおむつやズボンをはくのをできるだけ自分でやり、できると保育士に拍手をしてほめてもらい、できないところは保育士に手伝ってもらっています。

朝の会では、保育士が袋から次々とするものの名前を子どもたちが言ったり、絵本にあわせて食べるまねをしたり、動物の名前を言ったり、一緒に歌ったりします。子どもたちは、保育士の話をよく聞いています。

おやつ後は散歩に出かけます。靴下をはくときは「きゅーきゅーきゅーだよ、じぶんでやってみて」と保育士にすすめられて、自分ではこうとしています。2日間とも同じ公園に行きましたが、行き帰りには保育士がよく歌を歌い、途中の川でカモの親子やリスとであい、霜柱やユズの実を見つけます。公園では葉っぱをかけ合ったり、谷間にたまった枯葉の中にもぐったり、山道の坂を滑って降りたり、自然の中でたっぷり遊んでいます。

帰り道では橋の上で出会った親子に保育士がカモの話をし、子どもたちも一緒に「バイバイ」をしています。

2 歳児クラス

朝登園した子どもたちは、絵本、ブロック、ままごと、ぬいぐるみなどで遊んでいます。1日目には保育士に渡されたジグソーパズルを「取り替えて」としっかり主張できる子どもも見られました。2日目には子どもたちが自分で出してほしいおもちゃを保育士に告げて出してもらった姿が見られました。

おやつは、歌を歌ったあと揃って「お手手パッチン、いただきます」をして食べます。トイレには各自行きますが、ほとんどが自分でパンツ式のおむつをはき、ズボンも自分ではいています。手洗いも保育士に言われないでできる子どもがほとんどで、ほぼ習慣づいているようです。トイレに排泄チェック表があり、おむつはずしの状況がわかるようになっています。

散歩は近くの公園で、公園につくと凧揚げです。レジ袋に自分で絵を描いた凧はよく揚がり、子どもたちは風を切って何度も走っていました。その後、マラソンをし、砂場ではレストランごっこが始まります。それぞれ役割を決め、料理を作る子どもは砂で黙々とつくり、ウェイターは注文を聞き、お客はいろいろ好きなものを注文するなどして楽しんでいました。一人の子どもは離れてどんぐりを食材に見立ててままごとをしていました。

3 歳児クラス

朝は3、4歳合同の日でした。境の扉はあけてあり、テーブルでぬり絵をする子、ブロック、カブトムシの相撲(子どもたちが考えた、紙相撲のように箱を叩いて相撲を取らせる遊び)などで遊んでいます。日によっては、収納棚を開けたままで、子どもたちが好きなおもちゃを取り出して遊べるようになっています。

合同で朝の会もやり、トイレに行ったあと散歩に行く準備をし、各クラス別々に出発します。散歩先は親水公園で、子どもたちは川ではシラサギを見たり、霜柱を手にとって「ずっと持っているとお水になるよ」と実際に経験し凧とを話したりしています。公園では、各自で作った紙の凧を揚げます。糸の長さを調節しながら、河川敷を走り回り、飽きるまで繰り返しています。皆が一段落したあと、鬼ごっこ、ボール投げをして遊びます。

園に帰って、手洗い、うがいを各自テーブルにつくと、当番以外の子どもは絵本を読んで待っています。「お片付けの時間です」と当番が言うとみんなが絵本を片付け、保育士がよそったものを当番が配ります。アレルギーでマヨネーズが違う子どもには別にラップがかかかっていて、保育士が別に配ります。子どもたちもわかっていて「ちゃん、おかわりしちゃだめだよ」と声をかけていました。みんな、お箸を上手にを使って食べています。ラーメンとほうれん草のサラダをおかわりする子どもが多く、残す子どもはほとんどいません。

食事のあとは一列に座って歯磨きをします。歯磨きの席順でもめて泣き叫んでいる子どもを、保育士が一人ユーティリティに連れて行き話していました。

4 歳児クラス

朝の時間は3歳児と合同で遊んでいます。おもちゃの箱を出し、好きなおもちゃを選んで遊んでいます。かるた、あやとり、神経衰弱などのゲームをしている子どもが多く、保育士が最初はゲームに加わり、子どもたちが遊び方がわかるようになると退いて、子どもだけで遊んでいます。おもちゃの片づけの時に、二人の子どもが一人でやるか二人でやるかで、もめました。保育士は二人の子どものそばについて、辛抱強く話を聞き、やさしく仲裁をしていました。

朝の会の後、トイレに行き、準備を終えると、二人ずつ手をつなぎ散歩に出発です。道路を渡るときは保育士の合図で「右、左、前、右」と声を出して確かめ、手を挙げて渡ります。公園では木の根が張って

いる斜面を一人ずつ登ります。上につくと、体を温めるためにマラソンです。保育士が合図するまで何周も回り、スピードも速く、体力がついていることが分かります。

その後2チームに分かれて「どろけい」をし、その後は自由遊びです。霜柱の混じった泥でままごとをする子ども、水路で遊ぶ子ども、遊具にぶら下がってコアラごっこなど、思い思いに友達と関わったり離れたりしながら遊んでいます。

昼食は、当番が汁も上手に盛り付け、席まで運んでいます。食パン、から揚げ、サラダ、サツマイモのおつゆですが、残す子どもはほとんどいません。いっぱい遊んだ後でおなかもすいたのでしょう、黙々と食べる子どもが多く、あくびをする子どももいます。

5 歳児クラス

登園してくると自分からお店屋ごっこの品物作りをしたり、絵を描いたり、子ども同士で遊んだりしています。お店屋ごっこは、毎年やっているのでしょうか、前回何を買ったかを思い出したり、「ちゃんか絶対買うと思うよ」など買う子を予測したりしながら、楽しんで作っていました。

片づけになると、子どもたちは自分たちで片づけ、テーブルに敷いたビニールシートを4人で苦勞をしながら重ねています。保育士は子どもたちだけでやり遂げるのを、ゆったりとあたたかい目で見守っています。

散歩に行く時も先頭の子が「みぎ、ひだり、まえ、みぎ」「手をあげてわたります」と毎回いって、車が来ないか確かめ、保育士も一緒に確認をしています。

公園での遊びも、先にみんなでの遊びをするか自由遊びにするかを子どもたちで決めます。また、みんなでの遊びも「だるまさん」かドッジボールか、それぞれ多数決で決めています。1対6で負けた子どもに「いい?」「後でやるから」など一人になった子が「いいよ」というまで聞いたり説得したりしています。それを保育士もじっと聞いて待っています。

散歩の途中で会う人には必ず「こんにちは」と大きな声で挨拶をします。子どもたちの声で、うつむいて歩いていた人、むっつりしていた人も思わずにこっとします。

食事中、嫌いな食べ物は野菜という子ども、「もも(3歳クラス)の時野菜食べられなかったけど、今は食べられる」という子どももいます。「みんな仲いいねーけんかしないの?」と聞くと、「時々するよ」「けんかしない保育園なんてないよ」とこたえてくれました。

午後、他のクラスは午睡に入りますが、5歳児は1月から午睡はなく、遊びと就学の準備のために文字のワークや製作などを行っています。訪問の日は、砂の庭でサッカーや泥遊びなど自由に遊び、文字のワークも教室のような形で楽しんでやっていました。その後、検温、トイレ、身体測定をします。

夕方の散歩は近くの河原まで行き、みんなでこおり鬼をやって遊びました。小さい川を跳んだり、坂道も元気に駆け上がり、思いっきり走っていました。

まとめ

子どもたちは乳児期にしっかり生活の型を教えられ、幼児期になるとほとんど自分たちでできるようになっています。保育士は4歳児には自分たちで考えるように促し、自分たちで何をすればよいか、どうすればよいかを考えて行動するように見守っています。5歳児になると一人ひとりが、しっかり考えをいい、聞いてあげることができています。友達のことも分かり、子ども同士で決めたり、解決したりできる力が育っています。保育士は大きな声を出すことがなく、もめたり手がかかることが起こっても声を荒げることなく、辛抱強く、穏やかに子どもたちと接しています。また、遊ぶときも子どもと一緒に楽しんでいて、お互いの信頼関係ができています。いつも家庭的であたたかい雰囲気は流れています。

事業者コメント

当保育園は平成 18 年 4 月に認可保育園として開園いたしました。

笑顔の絶えない家庭的な雰囲気の中で大切なお子様をお預かりし、保護者の皆様とのコミュニケーションを大切にすることを基本理念・方針として保育してまいりました。そして「よく遊び、よく食べ、よく寝る」ということを保育目標とし、戸外遊びを中心に自然を教材として取り入れ、五感を刺激することで感性の豊かな育ちを見守り、心身ともに健康に成長する事を目指しています。

今回、第三者評価を受審するにあたり、全職員で受審する事の意味を考え、真摯に取り組みました。ひとつひとつの項目について話し合う中で、共通の理解に安心したり、日頃お互いが理解しているつもりでいたことが微妙にずれていたり、理解不足であることなどが判明し、常勤、非常勤等それぞれの立場の職員が共通意識を持つこと、それを全体に浸透させることの難しさを感じました。しかしながら今回の取り組みによって、職員同士の思いを客観的に見つめなおすことが出来、より一層連携が深まったように思います。

保護者アンケートの結果では、日頃から保育に携わる中で職員が大切にしていることが、おおむね伝わっていることがわかり嬉しく思うのと共に、項目によっては伝え方を工夫していかなければならないものもあり、今後の課題として前向きに検討していかなければならないと思いました。又、地域への子育て支援、マニュアル等の整備についても今後の課題とし、アドバイスしていただいた事を生かしながら、よりよい保育をしていきたいと思えます。

最後に、第三者評価を実施していただいた市民セクターよこはまの評価調査員の方々に何度も保育園に足を運んでいただき、様々な視点での助言を頂いた事に感謝し、またお忙しい中アンケートにご協力いただいた保護者の皆様にお礼申し上げます。

そうてつ保育園 GENKIDS いずみ中央
施設長 飯村有卯子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るすることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
